

“経営に知恵と革新”

令和4年5月1日発行（隔月発行）Vol.764号

# マネジメント コンサルタント

Management Consultant

2022年5月・6月号



尾瀬ヶ原  
(群馬県)

認定経営革新等支援機関

 一般社団法人日本経営士会

# 第68回定時社員総会のご案内

社員(正会員)の皆様には日頃より、当会の事業運営に深いご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第68回定時社員総会を下記のとおり開催いたします。ご多忙とは存じますが、ご出席いただきますようお願いいたします。(当日の開催は対面とオンラインのハイブリットで開催いたします。)

尚、ご出欠は後日、お送り致します定時社員総会の資料に同封のハガキにてお願いいたします。ご欠席の場合も必要事項をご記入のうえ、必ずご投函願います。

## 記

日 時：令和4年6月24日(金) 15:30~17:00

懇親会：17:00~19:00(会費 4,000円)

※懇親会はコロナの状況により1か月前に開催の有無をお知らせいたします。

会 場：スクワール麹町3階フリースペース「錦華」

東京都千代田区麹町6-6

TEL：03-3234-8739 FAX：03-3234-8738

<http://www.square.or.jp/access/>

- \* JR四ツ谷駅 麹町口正面 徒歩30秒
- \* 東京メトロ丸の内線 四ツ谷駅 四ツ谷口 徒歩3分
- \* 東京メトロ南北線 四ツ谷駅 3番出口 徒歩2分

## 【議 案】

第一号議案：令和四年度事業報告に関する件

第二号議案：令和四年度決算承認の件 監査報告

第三号議案：次期本部役員の承認について

第四号議案：定款変更について

第五号議案：令和五年度事業計画に関する件

第六号議案：令和五年度事業事業収支予算に関する件

※決議事項は第二、三、四号議案となります。

※議案の変更がある場合がございます。その際は速やかにお知らせいたします。

以 上

# INDEX

本部監事候補選挙開票結果／本部役員候補者並びに支部長承認について	2
永年(50年以上)在籍表彰について	4
事業部・委員会活動	
『サスティナブル・マネジメント・センター』キックオフ	5
経営支援事業部「令和4年度第一回経営支援アドバイザー養成講座開催のご案内」	6
CSR環境事業部「S市産学官金によるSDGs町おこしプロジェクト」	8
SDGs事業部・委員会報告	10
AMCJクロッシング活動報告	12
MPP委員会からのお知らせ	14
NJK女性経営士の会 インスタグラムマーケティングセミナーのご案内	15
「一木会」研究会の会長交代イベント	16
支部活動報告	
北海道支部	17
北関東支部 茨城県会	18
北関東支部 茨城県会／近畿支部	20
北関東支部 新潟県会	21
埼玉支部	22
南関東支部	23
中部支部	24
特別寄稿 SDGs・カーボンニュートラルとバイオテクノロジー	26
第55期経営士養成講座開催のご案内	27
インフォメーション	29

マネジメントコンサルタント (Management Consultant)

発行所：一般社団法人日本経営士会

〒102-0084 東京都千代田区二番町12-12 B.D.A. 二番町ビル5F

Tel：03-3239-0691 Fax：03-3239-1831

<https://nihonkeieishikai.com>

表紙：尾瀬ヶ原(群馬県)

## 本部監事候補選挙 開票結果

選挙管理委員会は令和4年3月16日に本部監事候補選挙の開票を実施し結果、下記のとおりになりましたので、3月18日の定例理事会に報告し確認を得ました。

有権者数：633 得票数：224 得票率：35.4%（定数2名）

立候補者（敬称略）	得票数	順位	結果
廣瀬典仁（南関東）	106	1	当選
春原和夫（埼玉）	77	2	当選
中島 功（近畿）	39	3	次点
無効	2		
合計	224		

令和4年3月16日

一般社団法人日本経営士会

選挙管理委員会委員長 多賀 吉令

## 本部役員候補者並びに支部長承認について

令和4年3月16日（水）に選挙管理委員会が実施した本部監事候補者選挙開票結果（別紙）を3月18日（金）の定例理事会にて確認した結果、本部役員候補は下記のとおり決定いたしましたのでお知らせいたします。尚、本部役員は6月24日（金）開催の第68回定時社員総会の決議にて正式に決定いたします。

また、支部長候補者につきましては同理事会にて審議し、候補者（推薦者）全員が承認されたためのでお知らせいたします。

記

（氏名敬称略・順不同）

### 1. 本部役員候補者

#### （1）業務執行理事

定数：東日本ブロック1名、中日本ブロック3名、西日本ブロック2名

#### 東日本ブロック

①高橋 直也（東北支部）



## 中日本ブロック

- ①鈴木 和男(東京支部)
- ②近藤 安弘(南関東支部)
- ③児玉 充晴(千葉支部)

## 西日本ブロック

- ①豊政 茂(中国支部)
- ②岩井美喜夫(四国支部)

## (2) ブロック理事

### 東日本ブロック

- ①竹俣 大介(北関東支部)

### 中日本ブロック

- ①大蔵 充夫(東京支部)

### 西日本ブロック

- ①三品 富義(中部支部)

## (3) 本部監事

- ①廣瀬 典仁(南関東支部)
- ②春原 和夫(埼玉支部)

## 2. 支部長

北海道支部：須川清一      東北支部：山下健二      北関東支部：栗山一宏  
千葉支部：関口 恒      埼玉支部：鈴木栄治      東京支部：大蔵充夫  
南関東支部：戸部廣康      中部支部：三品富義      近畿支部：國廣好行  
四国支部：川西健雄      中国支部：小原啓子      九州支部：西尾廣幸  
台湾特別支部：蔡有義

(※3月18日現在次期支部長候補者が未定だった近畿支部は後の支部幹事会により現職の國廣支部長が再任された旨の議事録が提出され、理事決議により承認されました。)

以 上

## 永年(50年以上)在籍表彰について

理事会では、在籍50年以上の会員に対して、その功績をたたえるため、表彰状と副賞を授与することを決議しました。永年在籍表彰は今後も恒例行事として開催します。尚、今回はコロナ禍のため、授与式は行わず、表彰状と副賞を郵送いたしました。おめでとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

会員 No	氏名	所属支部	生年月日	入会年月日	在籍年数
408	市川 政雄	東 京	1935年 4月11日	1962年11月26日	59
442	渡部 喜政	東 北	1937年 2月16日	1963年 7月25日	58
543	荒田 英路	近 畿	1937年 4月 8日	1965年 1月13日	57
635	小林 繁夫	南関東	1937年 2月24日	1965年12月23日	56
725	栗山 仙之助	近 畿	1925年 8月 4日	1968年 6月 1日	53
777	押田 邦夫	中 部	1941年10月17日	1969年12月 1日	52
834	高橋 栄一	南関東	1938年 4月 9日	1971年 3月 8日	50
850	神永 光男	東 京	1934年11月20日	1971年 6月 8日	50

※一昨年年末に退会された元東京支部 平山 道雄様は在籍64年、本年退会された元北関東支部 中村 泰二様は、在籍50年にわたり本会の発展にご尽力されました。退会後も本会のため、寄稿等の活動をしておられます。退会後となりますが、その活動に敬意をこめ表彰対象(感謝状)に推薦いたしました。

# 『サステイナブル・マネジメント・センター』キックオフ

4月1日(金)15:00～17:30 サステイナブル・マネジメント・センター(略称:SMC)のキックオフを実施しました。リーダー各位と事務局は本部でリアル参加し、メンバーの方々はZOOM参加いただき、全体で47名の参加がありました。

冒頭、鈴木会長(SMCセンター長)からSMCの設立趣旨の説明がありました。

～お客様企業・組織の行動変容を促し強靱な企業体質「レジリエンス」の保持と、持続可能な企業経営「サステイナブル」の構築に貢献することが当会の存在意義(パーパス)です。その実現のために「サステイナブル・マネジメント・センター」を設立します。～

続いて7つのグループのリーダーにより役割と取組計画についての発表がありました。

①【SX/GX】 社会課題をビジネス視点で解決していくSX(SDGs)の推進。

特に「SDGs経営士®」(2020年9月に商標登録)をコンサル業界での差別化戦略とする。2050年の脱炭素社会実現に向けた再エネ利活用、CO2排出削減などのGX活動の研究・評価。

②【DX】 DXなどデジタルを活用しての企業や社会経済の革新(イノベーション)の研究・実践。

③【ESG投資・企業分析・評価】 CSR、ESG、SDGsを視野に入れ、企業経営のガバナンスなど非財務情報を含めた統合報告書などパフォーマンス評価指標の研究。

企業分析の各種理論・手法の研究と展開。

④【マーケティング】 SMCのプロフィットセンター化を視野に、経営士会全体のマーケティング戦略・戦術の企画・実施。

⑤【SDGs経営士養成講座・CSR環境経営士養成講座】 SDGs経営士誕生に向け、現行環境経営士養成講座との整理・統合の検討。SDGs経営士養成講座の実施。

⑥【経営士・経営士補等講座】 経営士・経営士補・准経営士補と経営士会全体の養成講座の内容の明確化・統合化の推進・実施。

⑦【SMCプロジェクト】 経営士会として推進すべき社会・経済課題解決を目的としたプロジェクト活動の発掘・開拓とその推進。

続いて各活動の取組に関する質疑応答が積極的になされました。

今後、7つのグループは具体的な活動に展開していきますが、2か月に1度、偶数月の第1金曜日にリーダー会議を設定し、各グループの活動進捗状況の確認と相互の情報共有・連携を進めていくこととなります。

(専務理事・SMC事務局 近藤 安弘)



(新年度初日SMCキックオフ!)

## 事業部・委員会活動

# 令和4年度第一回経営支援アドバイザー養成講座開催ご案内

経営支援事業部

### 1. 開催目的

経済産業省は中小企業の支援策として、認定経営支援機関に対し伴走支援を求めてきている。また補助金に特別枠としてデジタル枠、グリーン枠、インボイス枠設定している。

更に本会として経営支援アドバイザーの更新制度を導入することになり、その内容をご紹介します。

今回の養成講座はこれら新しい制度・内容を反映させることから開催日数を3日間としました。尚、受講生の理解力を高めるために確認試験を毎回実施することにします。

### 2. 開催期日 5月15日(日)、21日(土)、22日(日)の10:00～17:00

### 3. 募集人員 新規受講：20名、リカレント：20名

ただし最低開催人員は新規受講：10名、リカレント：10名とする。

### 4. 受講方法 ZOOM

### 5. 受講料金 新規受講：30,000円、リカレント：3,000円

### 6. プログラムと講師

プログラムや時間に変更されることがあります。

開催日	プログラム	所要時間(分)	講師
1日目 5月15日(日)	開講挨拶	10	担当理事
	認定支援機関及び経営支援アドバイザーの役割、更新制度について	50	高橋(栄)委員
	伴奏型支援について	30	高橋(栄)委員
	経営革新計画について	110	小池委員
	経営力向上計画について	90	小池委員
	事業承継・引継ぎ補助金について	40	高橋(栄)委員
	受講者アンケート、確認試験	30	吉村委員
2日目 5月21日(土)	ものづくり補助金申請書について	210	小池委員
	事業継続力計画について	90	小池委員
	IT補助金について	30	吉村委員
	受講者アンケート、確認試験	30	吉村委員
3日目 5月22日(日)	事業再構築補助金申請書について	280	横田委員
	持続化補助金について	40	高橋(直)委員
	受講者アンケート、確認試験	30	吉村委員
	閉講挨拶	10	高橋(栄)委員



# 令和4年度第1回 経営支援アドバイザー 養成講座申込書

(既アドバイザー資格者リカレント研修含む)

令和4年5月15日(日)、21日(土) 22日(日) (ZOOM受講)

会員名	
会員番号	
所属支部	
区分(いずれかに○)	・新規研修受講 ・既 advisor 有資格者
E-mail	
携帯電話番号	

所定事項記入の上、下記宛メール添付を送付お願いします。

(一社) 日本経営士会 本部 事務局 担当 竹下克美

E-mail : [office@nihonkeieishikai.com](mailto:office@nihonkeieishikai.com)

もしくは FAX 送付をお願いします。(本部 FAX 番号 03-3239-1831)

お問い合わせ → (本部電話番号 03-3239-0691)

- ・受講料：新規受講者 30,000 円／リカレント（資格保持者）3,000 円  
(受講料は5月10日までに下記へお振込み願います)  
みずほ銀行 麹町支店 普通 1614618 一般社団法人日本経営士会

\*いただきました情報は今後、経営支援事業部が開催しますセミナー・行事等のご案内に使用させていただくことがありますので、ご了承をお願いします。

中国支部 環境経営士 松田 敏弘

- 事業内容 S市内高校生とS市内企業とのSDGs推進活動と発表会(11/17)
- 事業期間 令和4年4月～12月 以後継続
- 主体者 S市商工会 S市内高校4校  
S市 C銀行志度支店
- 予算執行 S市商工会
- 支援アドバイザー 環境経営士 松田敏弘
- 支援業務 事業計画作成、SDGs意識調査と分析、高校生へのSDGs講演、高校生と企業の活動支援、

寄稿するにあたり、まず我々を取り巻く社会環境はこのコロナ禍により大きく様変わりしました。まず、一つはSociety 5.0の世界です。少なくとも5年は要すると思っていた時間軸が、このコロナ禍により急速に縮まったと思います。そして、もう一つはSDGsの世界。2015年に採択されたSDGsは、特にEUを中心にあらゆる方面に影響を与えている。

しかし残念なのは、いずれにおいても日本という国は、先進国と言われる国々の中では一歩も二歩も出遅れた感があり、少子高齢化という最大の課題を抱えているにも関わらず、内需型経済から脱却出来ないというか、庭の池でしか生活が出来ないようである。

さて、当事業は少なくとも将来的には、中小企業にSDGsは企業活動に多大な影響を与えるということを認知させ、そこに環境経営士としてのビジネスを創出することができると考え企画したものです。それもこれも冒頭に記載した通り、日本(日本の中小企業)は先進国の中では、SDGsが出遅れているからです。その理由は大きく下記の5つではないだろうかと考えます。

- ・地球規模の課題でありCSR要素が多く包括性が強い
- ・専門的知識が乏しい
- ・自社の事業とSDGs17の目標を紐づけているだけ
- ・短期での結果を求めている そして、
- ・経営者層がSDGsを理解していない

そのため、当事業ではまず、高校生つまりZ世代(次代のプロシューマー)と企業の交流推進から始めている。これなら、企業も自社のPRにもなり、日本人の好きな社会貢献=SDGs活動推進の理由にもなる。

そして、中長期の中でSDGsの本質を地元中小企業に理解させ、彼らの不安を言語化し、そこにビジネスの機会を創出したいと思う。つまり、S市内高校生とS市内企業とのSDGs推進活動と発表会を通じ、S市内企業に対して、SDGsの本質を理解させることが、当事業の隠れた目標である。

このプロジェクトが採択されるまでの流れは、昨年からC銀行へ訪問し、事業の有益性を説明。そして、S市商工会へも一緒に働きかけを行った。一方では、S市内高校へは、C銀行とも手分けをし、訪問したり、私自身が高校でSDGs講演をしたりと事業採択に向け行動をしました。

大まかな事業の工程は、まず発表会は11月で決まり、すでに第一回目高校生への意識調査※1も終わり、現在は参加校から発表のテーマが決まったところです。

今後は、高校生へのSDGs講演をし、高校生のSDGs活動に対してS市内企業をマッチングさせ、SDGs活動推進のアドバイスをするようになります。

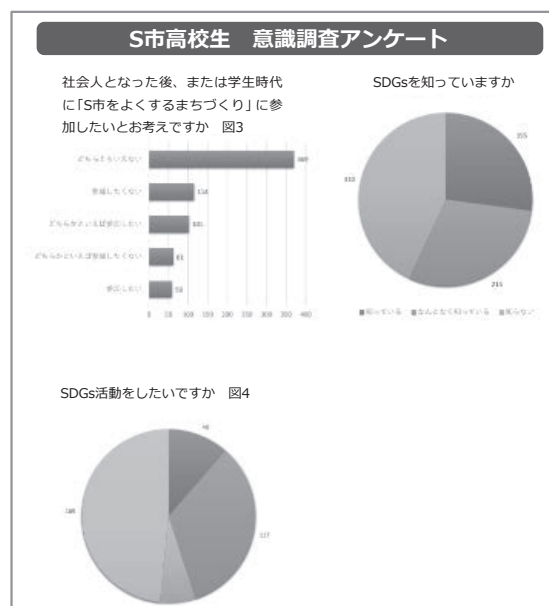
イベント終了後は第二回目の意識調査を行い、S市やS市商工会へ新たな事業が創出できるような提案をデータに基づき行いたいと思っています。

最後にこれは持論ですが、サステナビリティ経営とは、一足飛びでは出来ない。移行(トランジション)期間があり、グリーンそして、イノベーションへと過程が続く。大切なのは、移行期間をどのように過ごすかだと思っています。

## 工程表

1年目 (令和4年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生と企業のSDGs視点で取組、発表</li> </ul>
2年目 (令和5年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生と企業のSDGs視点で取組、発表</li> <li>企業に対してサステナビリティ経営推進を提案</li> </ul>
3年目 (令和6年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生と企業のSDGs視点で取組、発表</li> <li>企業に対してサステナビリティ経営推進を支援</li> </ul>

### ※1 第一回意識調査



# SDGs事業部・委員会報告

SDGs事業部・委員会

日本経営士会SDGs事業部・委員会は、第4四半期の活動として、内閣府・地方創生SDGsプラットフォーム運営事務局主催の地方創生SDGs国際フォーラム2022および小田原市のSDGsパートナー制度の登録会員に対して、白山中学校2学年を対象とした出前講話に参加いたしましたので、以下の通り報告いたします。

地方創生SDGs  
官≡民連携  
プラットフォーム



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

■開催日時：2022年1月14日(金曜日)／10:00～17:00

## 地方創生SDGs国際フォーラム2022(ハイブリッド開催)

- ◇参画：一般社団法人日本経営士会 SDGs事業部・委員会
- ◇主催：内閣府、地方創生SDGs官民連携プラットフォーム
- ◇開催形式：会場参加(日経ホール：東京都千代田区大手町1丁目3-7日経ビル)  
オンライン配信(Zoom)のハイブリッド形式

### 【SDGs国際フォーラム2022概要】

プログラム	内容
10:00～	挨拶 ◇野田聖子氏 内閣府特命担当大臣(地方創生担当) ◇北橋健治氏 地方創生SDGs官民連携プラットフォーム会長(福岡県北九州市長)
10:20～	基調講演 ◇村上周三氏 一般財団法人建築環境・省エネルギー機構理事長 ◇サイモン・クリサンデル氏 スウェーデン王国マルメ市副市長
11:10～	セッション1 パネリスト 地方が牽引する脱炭素社会の実現～地方創生と脱炭素の好循環に向けて～ ◇パトリシア・フロア氏 駐日欧州連合代表部駐日欧州連合特命全権大使 ◇長谷川雅巳氏 一般社団法人日本経済団体連合会環境エネルギー本部長 ◇太田 昇氏 岡山県真庭市長 ◇守屋輝彦氏 神奈川県小田原市長 ◇原 正樹氏 湘南電力株式会社代表取締役社長 ◇村上周三氏 一般財団法人建築環境・省エネルギー機構理事長 ファシリテーター
12:30	昼休憩 SDGs 未来都市取り組み紹介(12:30～13:50)
13:50～	セッション2 パネリスト 地方を活性化し、世界とつながる、デジタルを活用した持続可能なまちづくり ◇村上敬亮氏 デジタル庁統括官国民向けサービスグループ長 ◇長谷部周彦氏 東日本電信電話株式会社ビジネスイノベーション本部地方創生推進部長 ◇ピーター・タクソーイエンセン氏 デンマーク王国大使館特命全権大使 ◇榎 崇斗氏 taneCREATIVE 株式会社代表取締役社長 ◇宮元 陸氏 石川県加賀市長 ◇北廣雅之氏 内閣府地方創生推進事務局参事官 ファシリテーター
15:20～	地方創生SDGsに官民連携で取り組む優良事例の紹介 地方創生SDGs官民連携プラットフォーム
15:50～	総括 ◇村上周三氏 一般財団法人建築環境・省エネルギー機構理事長
16:10～ 17:00	フォーラム関連 イベント Ⅰ「自治体、企業などによる地域活性化をにらんだ大阪・関西万博の「活用法」」 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会主催 Ⅱ「消費者志向経営×地方創生」消費者庁主催 Ⅲ「企業版ふるさと納税について」内閣府主催

以上

■開催日時：2022年2月22日(火曜日)  
13:00～16:30



日本経営士会は、持続可能な開発目標 (SDGs)を支援しています。

**中高生向け職業体験講話について (リアル開催)**

◇職業講話テーマ

これまで学習した「職業調べ」と「SDGs」について、実際に働いてる方々の話を聞き、学習を深めよう!!

◇主 催：小田原市企画部未来創造・若者課

◇時間帯：①5校時 13:30～14:20 / 白山中学校2階、第3視聴覚室  
②6校時 14:30～15:20 / 同室

◇本会の担当班：11班(19名)、12班(20名)、トータル：39名

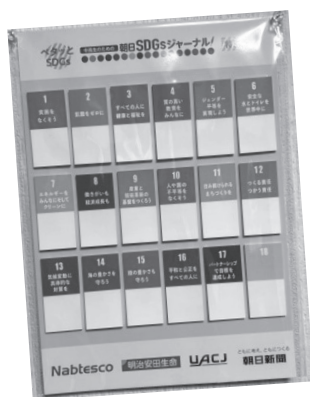
今回、小田原市の「おだわらSDGsパートナー企業」制度に登録(約190団体)されている様々な企業から応募・選抜され、最終的に11団体が参加され、小田原市立白山中学校の2学年(約180名)を対象とした「職業体験講話」の内容でありました。1週間前には、白山中学校の2学年の主任教員殿よりZoomにて、要望・諸事項などについて、情報共有をさせていただきました。



(写真1. 11班の職業体験講話の様子)

当日は、福井、本田の2名で集合時間(13:00)に参集し、白山中学校の校長であります村上様よりご挨拶され、後に2学年の主任教員殿

より職業体験講話の担当企業と教室一覧表を配布され、各企業が担当される班と大凡の流れ(表1)をご案内されました。その後、指定された教室へ出向き5校時、6校時と各企業が準備された資料などを基に「職業体験講話」が開始されました。生徒より活発な質問および各班のリーダーよりまとめ・お礼の言葉をいただき無事終了いたしました。なお、朝日新聞社殿より当会に朝日SDGsジャーナル(70部)とSDGs付箋(5セット)いただきましたので、白山中学校殿へ全て寄贈いたしました。



(写真3. SDGs付箋)



(写真2. 朝日SDGsジャーナルvol.02)

表 1. 職業体験講話の時間割

時間	内容	時分
13:00～	オープニング	
◇5校時	①講話	35分位
13:30～	②質疑応答	10分位
14:20	③まとめ・お礼	05分位
	休憩 (各班移動)	10分
◇6校時	①講話	35分位
14:30～	②質疑応答	10分位
15:20	③まとめ・お礼	05分位
15:30～	クロージング	
	解散	

以上

SDGs事業部・委員会 本田 哲行



## AMCJクロッシング活動報告

AMCJクロッシング

2月にZOOM開催をしましたAMCJクロッシングは、6回目にあたります。約40名の参加者でブレイクアウトセッションを5グループに分けて、活発なご意見がでましたので今回発表させていただきます。これからも全国会員の皆さまが気軽に参加でき、お互いを知っていただける「フラットな場」になるように、運営を行ってまいります。

AMCJクロッシング委員長 戸田 裕之

### ◆『第6回 AMCJクロッシング』、2月13日(日)、14:00～、参加者40名

テーマ「未来創造にはDXが不可欠」

～ リ・スキリング(Re-skilling)で新たな学び方改革～

ファシリテーター：石原 群司 会員

### ◆グループ討議のテーマ「零細企業や中小企業は、なぜDXが進まないのか？」

(グループ1)

- ・人、お金、人材の不足
- ・長年ずっと同じやり方で成功している、変える必要がない。  
このままで良いのではないか、成功体験が邪魔している。
- ・経営者が危機意識を持つことによってはじめて変化が起きる。  
経営士はその役割を担っている。

(グループ2)

- ・DXのXの姿が描かれていない(未来の姿が見えていない)。
- ・導入する為の教える人材、資金不足で、補助金等もどうすれば良いかわからない。
- ・DXは強制力があれば進む。

(グループ3)

- ・電子帳簿の法制化でも、中小企業のみならず大手企業の社長でも知らない。
- ・DXを目的のないまま導入すると、アナログが最大の敵にもなっている。
- ・DX化してもトップの理解がなく、全体最適化されない。

#### (グループ4)

- ・DXを阻んでいるものはやはりお金、一種の設備投資。
- ・若い人はスマホを使ってる。
- ・スマホのLINEをチーム、ミッショングループ、全体と色々グループを使い分けて情報共有を行っている。

#### (ルーム5)

- ・日本社会はコンサバティブ、強権的な力によってDXが推進されると思う。
- ・日本の現状は教育から変えていかないと難しい、現状では受身の人間が70%以上。
- ・枝葉のシステム化のみで終わり経営全体を見て課題解決する意識が欠如されている。

各グループから、「リーダーシップ力」「全体最適化できる人材」「教える人材」などが共通項として見えてきました。

また、「DXの、X=myselfであり、自分自身の仕事のデジタルでの変革である。  
自分自身のデジタル変革が出来なくて、他者への支援が出来るはずがない。  
自分自身の仕事のやり方を棚卸して、どう変革してゆくのか？を考えてみよう。  
そのプロセスは、企業のDXの取り組みと同じはずである。」との意見もありました。

#### ◆今後のスケジュール

2022年6月12日(日)、14:00～16:00

『第8回 AMCJクロッシング』、テーマ未定

AMCJクロッシングの開催日は、【偶数月 第2日曜日】を予定しております

お申し込み先：[keieishikai.crossing@gmail.com](mailto:keieishikai.crossing@gmail.com)

メール件名：AMCJクロッシング 申し込み

メール宛先：AMCJクロッシング 戸田宛て

メール本文：①お名前、②会員番号、③支部名、④電話番号

# MPP委員会からのお知らせ

MPP委員会

## ◆MPPリーダー更新研修開催

コロナ禍の影響でMPPリーダーの更新研修(5年更新)が支部・県会主催で2年間実施出来ない状況でした。そこでMPP委員会主催による第1回2022年2月6日(日)に引き続き、第2回を2月20日(日)、第3回を3月20日(日)にて実施しました。本来、リアル研修が望ましいですが、コロナ禍を考慮しオンラインにて研修を行いました。しかしながら、ケースメソッドの討議においては、参加者の皆様より活発な意見で盛り上がり、有意義なMPPリーダー更新研修となりました。

### 第2回MPPリーダー更新研修参加者

開催日	支部名	氏名
2022年2月20日(日) 講師：日野 隆生 一瀬 良之	東京	鈴木 和男
	南関東	竹内 一登
	南関東	鈴木 健
	近畿	北原 雅人

(敬称略)

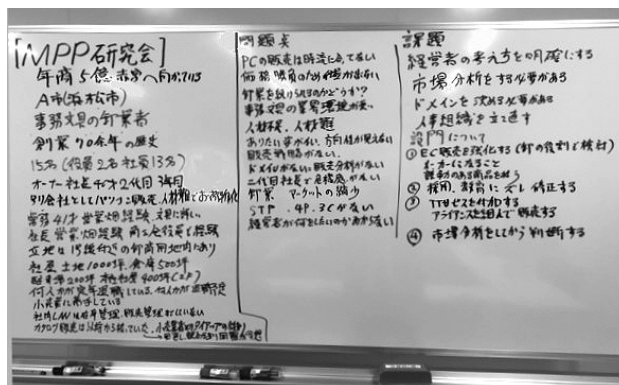
### 第3回MPPリーダー更新研修参加者

開催日	支部名	氏名
2022年3月20日(日) 講師：岩井 美喜夫 河上 晃	南関東	山本 英夫
	四国	川西 健雄
	四国	内海 信一
	四国	伊藤 綱男
	九州	神崎 進

(敬称略)

## ◆MPPのPR動画用撮影を実施

日本経営士会の登録商標されているMPP(Management Professional Program)を普及させるため、MPPリーフレット作成に続き、今回、MPPのPR動画の撮影を実施した。実施日2022年3月20日(日)13:30~16:30名古屋市教育館にてプロのカメラマンによる撮影。MPPケースメソッドによるリアル討議にて実施、リーダー、レコーダー含め参加者8名(男性6名、女性2名)。現在そのVTR編集途中で、今後、公開予定としています。



(討議内容の記録)

事業部・委員会活動

## NJK女性経営士の会 インスタグラムマーケティングセミナーのご案内

NJK女性経営士の会

### 2022年(令和4年度) 第1回女性経営士の会 外部講演会 パワーインスタグラマー宮田綾子氏による インスタグラムマーケティングセミナー参加者募集

第1回女性経営士の会・講演会がZOOMで実施されます。

カリスマ的人気を誇るパワーインスタグラマーの宮田綾子氏より、instagramの取り組みをご講演頂きます。大手新聞社や百貨店での講師から、個人のコンサルティングまで様々なクライアントに対応し、Instagramは、約5年半で14.1万人。Instagramマーケティングについてのヒントをお話いただきます。皆さまのご参加お待ちしております。

外部講演：「パワーインスタグラマー宮田綾子氏のInstagramマーケティングZOOMセミナー」

講師：パワーインスタグラマー 宮田 綾子(みやた あやこ)氏



(写真：宮田 綾子氏)

開催日：令和4年5月7日(土) 13:00～15:00(開場12:45～)

場所：ZOOMで開催(ZOOM招待URLはメールにて別途ご連絡致します)

対象：どなたでもご参加頂けます。

会費：会員 3,000円 一般 4,000円

内容：「パワーインスタグラマー宮田綾子氏のInstagramマーケティング」

(1) 自己紹介・宮田綾子氏について

(2) Instagramについて

- ・効果的なフォロワーの増やし方
- ・プロフィールの作り方
- ・ハッシュタグの付け方
- ・動画投稿・ストーリーズ・ライブについて
- ・エンゲージメントとは など

(3) 質疑応答

お申込み：以下のいずれかの方法でお申込み下さい。

NJK女性経営士の会 吉村へメール：yoshimurachizuko@gmail.com

本部へメール：office@nihonkeieishikai.com

本部へFAX：氏名・会社名・ご住所・電話番号・e-mailを記載の上お申し込み下さい。

本部FAX 03-3239-1831

※お申込み頂いた方に後日お振込み銀行口座のご連絡を致します。

※入金確認後ZOOM URLをお送り致します。



# 「一木会」研究会の会長交代イベントを開催しました

## 一木会研究会



「一木会」研究会は、日本経営士会の自主研究会として1969年に発足し、53年目の活動に突入し、満55周年を目指して活動中です。

さて、この度11年間の長きにわたり会長を務められて会の発展に大きく貢献をいただいた西満幸氏(経営士・東京支部)が2021年12月をもって会長職を退任され、新たに福島光伸氏(経営士・東京支部)が2022年1月から新会長に就任されました。

4月2日(土)に、本来はホテルの会場とZOOMのハイブリッド方式で交代イベントを開催する予定でしたが、オミクロン禍の状況を踏まえ、ZOOM方式で開催をいたしました。

まずは日本経営士会鈴木会長から会長交代のお祝いのご挨拶と、2022年度4月からスタートする経営士会「Great Change」の戦略的な組織である「Sustainable Management Center(SMC)」についてのご紹介をいただきました。

次に西前会長が一木会の歴史と会長時代に取り組みされたこととお話いただき、更に「未来を知る方法は2つある、ひとつは自分で未来を創ること、もうひとつは既に起こった未来を探ることである」というドラッカーの言葉を引用され、福島新会長を中心とする一木会後輩幹事への新一木会創りへの示唆あるお言葉を頂戴いたしました。

そして、就任した福島新会長からは「中小企業におけるサステナブルな経営を支援するために、必要な『知識』『仲間』『場』を提供し、コンサルと活動の場を創り上げる」という一木会のパーパス(存在の志)と新MVV(右記ご参照)のご紹介、またこれからの時代は従業員の「Well-being」状態が創れている企業でないとサステナブルな「価値創造活動」「価値提供活動」は難しく、まさに「GDW(Gross Domestic Well-being : 国内総充実)」の重要性が訴求されました。更に、一木会は日本経営士会との軌を同一にしながら、「個人の深耕したノウハウと、仲間とのチームワークで\*ハンズオン型コンサルによる共通価値の実現」で、単なるあるべき論を述べるだけのコンサルではなくクライアントに深く寄り添い、経営に入り込んで支援するコンサルタント集団の研究会でありたいとの理念が語られました。そして、最後に一木会として「着眼大局・着手小局」「本質追求」「革新姿勢」を共通的にもちたい視点として大切にしたいとの決意が語られて締め括られました。

※ハンズオン型コンサル：“hands on”＝「実践」から転じ、コンサルタントがクライアント企業の経営に直接参画すること

上記の福島新会長の理念と方針を具現化する様々な施策に取り組み、日本経営士会会員の皆様のご参画と忌憚ないご意見を頂戴しながら、トランスフォーメーションを目指して参ります。

今後の一木会に是非ご期待ください。

一木会研究会企画担当 大宮 政男(経営士 東京支部)

### 一木会のミッション・ビジョン・バリュー

#### I. ミッション(果たすべき使命)

会員、または参加者に対して、日本の中小企業がスークホルダーにとっての「WELL-BEINGな企業」となるためのコンサルティングカ、アドバイスカ、コーディネート力を体得する場を提供し、ともに成長し続ける

#### II. ビジョン(2024年末に目指す姿)

**知識創造** 研究会を通してミッションにある能力を深耕し、新たな知へと発展させている

**知識共有** 現場にて展開する視点でメンバーと知識共有活動を行っている

**知識展開** 獲得したノウハウをもって個人、あるいはチームでコンサル活動を展開している

#### III. バリュー(組織が共通して持つ行動規範)

1. 利己視点だけではなく会全体のあるべき姿から自身の言動を律する
2. 単なる形式知のみではなくそれをベースにした実践知と成果を重視する
3. コンサルを目指す若手や企業内経営士に対して彼らの夢の実現をバックアップする

3



北海道支部 相談役 溝渕 新蔵

全国の会員皆様方に北海道情報をお届けします。

経営士理念は「学問、研究、中小企業支援への献身」等ではありますが、特に自らの研究と支援が重要でありましょう。最近はコロナパンデミックも収まらない、社会環境が激変している中、ビジネス支援者としては複雑で、不確実のさなかでありましょう。

重要な『CSR・SX・DX・GX』などの研究活動が要請されています。

経営士会においては、ますますグレートチェンジを遂行させ、経営士活動すなわち「社会的活動」のより高度な奉仕を期待します。本部においては、「サステイナブル・マネジメント・センター」の活動が開始されることは、北海道においても一丸となって進めます。

北海道の問題点としての自覚は、①会員の減少、新規会員募集努力の不足、会員同士のコミュニケーション不足(北海道の広大さと、コロナ現象による疎遠さ)が課題でもありますが、しかしコロナパンデミックの終焉の期待や、北海道観光客の増加などを目論むことで、一層の努力をすする所存であります。

特に重要な点は、①サステイナブル・マネジメント・センターの創設、②従来のMPP研究の深化を図る、③論文研究などテーマを掲げ、北海道支部活動のレベルアップを図りたいです。函館地区の創設の次には帯広地区の創設を計画したい。最近大流行のZOOM技術の連絡も、十分な情報交換となりますので、今後一層活用したいと考えます。

次の情報は、役員交代を申し上げ新体制のスタートに際し、新支部長以下役員協力して頑張りたいところです。どうぞ宜しく御支援、ご協力をお願い申し上げます。

小生は、6年間支部長を仰せつかって参りましたが、今期で退きます。長い間のご指導ご支援を頂き誠に有難うございました。後任には須川 清一氏が就任します。須川氏は若さと健康にあふれ、人格、識見、能力に優れ、現在大学院博士課程にて研究中の優秀な経営士であり、経営者としてもコミュニケーションを大事にしています。今後は北海道の基軸として努力されるでしょう。今後共宜しく御支援頂けるようお願い申し上げます。

私は、今後相談役として後方からの支援に努めます。現在「経営哲学」の著述に尽力していますが、経営士活動には一層の微力を尽くしたいと存じます。

以上、新体制下のビジネスの方向性と新役員の船出を申し上げます。茲に、小生に対しまして誠に多大なご支援を賜りまして、言葉に出ないほど深く感謝申し上げる次第です。

## 支部活動報告

# 2021年度第1回 茨城県会公開MPP 開催結果

北関東支部 茨城県会

当会会員の皆様、当会の宝であるMPPを大切にすることを期待します。

2019年度第3回公開MPPを開催して以来、丁度2年半ぶりのリアルによる開催です。

コロナ禍への慎重な対応をしながら開催、参加の皆様健康面の異常発生はなかった様子安堵しています。MPPはリアルによる開催が意思疎通を図れ、リーダーやレコーダーに過重とも言える負担が掛からないと推測、慎重を期しながら継続的に開催したいと考えています。次回開催予定＝コロナ禍で未確定だがいつ頃可能か？ 早期予定を期待。

この結果報告については、批判的に読みいただきたいが、批判に終始するのではなく、肯定できる点については、参考にさせていただきたい。それがMPPの真髄と考えます。

当会では「MPP」を商標登録して、他団体等から類似品出現を防止しており、私達が商標を大切に、商標の積極活用を図るのが責務と考えます。皆様如何お考えですか？

当県会では公開MPPを年間4回開催、MPPへの魅力付加のため、県外や賛助会員、次に会員外を招き、複数チームでの開催を心掛けていたが、コロナ禍で予定できず、辛抱強く回復を待っています。今回は計7名にご参加いただきありがとうございます。2支部会員のご協力、ご参加で2チーム編成、少数会員の当県会、参加者に感謝です。



(2年半ぶりのリアル開催)

MPPは、経営士能力開発講座→経営能力開発講座(土を削除)→MPP(商標を取得)と変遷した経緯があり、根底にあるのは思考力の養成、その内容は大～零細の企業研究であり、広く組織研究と言えます。皆様如何お考えですか？ 皆様、再確認をお願いします。

### 1. 開催日：2022年3月26日(土)

13：30～17：00(事前の情報交換的説明等、終了後検討会 各15分間)

17：30～ (今回は非開催 従前は懇親会での会員外参加者と情報交換)

### 2. 参加者：2チーム、計7名(県内6名・県外1名＝県外や会員外が大切)

### 3. 開催場所：ひたちなか市 ひたちなか商工会議所

### 4. 使用ケースコード：トライアルケース

### 5. ケーステーマ(題名)：ある地方銀行の経営戦略

### 6. 終了後検討会：質疑応答を含み計15分間

### 7. ケース選定の経緯：MPPを継続開催すると、採用ケース探しに苦勞する。

未選定ケース払底の状態であり、今回はトライアルケース活用を目指した。

お世話係としては、過去と同一ケース採用は避けたいのが本心である。

8. チーム編成と会員外(今回は0)参加者について：

- 1) 計7名で2チーム編成、終了後検討会開催が大切、活発な意見交換できたと判断。  
6名／チーム では多過ぎ、4～5名／チーム は活発な討議になる。  
今回の3名／チームはメンバー不足だが、7名／チームより適切と判断。  
活発な討議結果を示す克明に記載のボード(写真)をご参照いただきたい。  
当県会ではリーダー体験者を増加、MPPの会員外への普及に寄与したい。
- 2) 終了後、通常懇親の場を設け、情報交換や対話不足を補い相互理解を深めている。  
今回は身近なテーマ、現実的な対話や感想に及ぶので、情報交換は有意義であり、開催したかったが、コロナ禍を配慮、非開催である。平常に戻ることを期待する。

9. 参加者の分析や感想等：

- 1) MPP初体験者の感想は、通常の事例研究に比べケースの詳細を経歴、体験の違う方々が様々な視野、視点から検討でき、MPPが優れている旨の指摘である。  
参加者の多種多様な考え方を0ベースで生かせるのは、MPPの優れた点であろうとの指摘でもある。
- 2) Bチームに長年の金融業経験者が居り、同業界の歴史的経緯を解説いただけたのは参加者の思考の助けになった様子である。先入観を入れるのは不適切とも言えるが失敗の部分の歴史を知らずに検討するより、適切な検討、論議ができたかと推定する。
- 3) 本ケースのA銀行は遊戯(パチンコ)業界への融資が負の遺産になり、結果としてJ銀行と(国策的に)合併することになったことを承知して置きたい。  
どんな事業でも負の遺産があると、業種転換するにしろ各種転換の足かせになる。
- 4) 合併後の進展は不明だが「総合金融コンサル業」に特化、集中強化が本筋と考える。
- 5) 最近の著作「リージョナルバンカーズ 地域金融が勝ち抜く条件(日経BP発行)」が参考になろう。関係の皆様興味があったらご覧いただきたい。お勧めしたい。
- 6) 合従連衡の激しい金融業界の現状を知ることも「経営士」にとり参考になろう。  
当日は奇しくも地銀でもATMトラブル発生の日、話題性あるMPPとなった。
- 7) 銀行業界は行政同様根強い「和暦使用の業界」これを改めてDX進展を期待する。  
「和暦、西暦」の使用等些末な問題と言うなかれ、根強い意識改革が必要と思う。
- 8) 今回のような質量感あるケースやトライアルケースの作成につき、会員の力を発揮して欲しい。まずは会員皆様の経験を一般化してケース作成を期待する。
- 9) 今回も記載だが、2チーム構成、2支部に及び、各支部の特徴が出てよかった。  
MPPにも県民性的な要素があり、各県会に呼び掛けて、多くの参加者に集まってもらう工夫が必要と思う。参加者の多様性確保ということである。  
参加会員の皆様のご理解、ご協力により、密度の濃いMPPになり感謝します。  
よき伝統が今後も引き続くことを信じています。

(茨城県会 MPP 写真提供 大内 雅功会員、お世話係 塚本 裕宥)

## 支部活動報告

# 茨城県会2月例会の報告

北関東支部 茨城県会

2月19日土曜日 ひたちなか商工会議所会議室にて2月例会を開始した。

年間予定では本日MPPオープン開催であったがコロナ状況を考慮して3月に延期することとしました。

今例会ではリーダー役を務めていただく塚本さん、鈴木さんを含めて打合せを行い県内企業状況経済状況など情報交換し散会しました。



(ポストコロナに向け準備中)

## 支部活動報告

# 近畿新支部長 ご挨拶

近畿支部

皆さんこんにちは、近畿支部長 國廣好行(税理士)です。

私は、今年度から支部長を拝命いたしました。経営士としては長く、今年40年になります。歴史ある日本経営士会の会員であることを誇りに思います。

さて、近畿支部では会員研修会の開催を考えております。当面は、Zoomを使い開催する予定です。また、講師は支部会員の方からお願いし講師スキルアップをしたいと考えています。特に、新しい会員の方の研修の開催に努めたいと考えています。例えば、事業復興助成金についてや、日興コーディアルのインサイダ取引等が良いかもしれません。コンサルタントとして、必要なスキルアップ研修会の開催に心がけたいと考えています。

これから、具体的に役員会で考えていきたいと計画しています。さらに、支部体制の構築に支部役員の英知をお借りし進めて参ります。

今後の、近畿支部をよろしく願いいたします。

日本経営士会 近畿支部  
支部長 國廣 好行

## 会員の皆様へお願い

住所変更、メールアドレスなど諸変更が生じた折には、速やかに事務局オフィスあて [office@nihonkeieishikai.com](mailto:office@nihonkeieishikai.com) にご連絡をお願いいたします。

今後メールにてお知らせ・ご連絡させていただく事項も多くなりますので有効なメールアドレスを是非お知らせ下さい。

(本部事務局)



## 支部活動報告

# 北関東支部新潟県会 総会

北関東支部 新潟県会

北関東支部新潟県会長 磯部 正美

### 新潟県会 総会

日時 2022年4月9日(土) 17:00～18:00

会場 新潟市 割烹 岡田

出席者 新潟県会 磯部県会長、渡辺副会長、木村副会長、西山副会長、粉川会員、  
桑山支部長

北関東支部新潟県会総会は4月9日新潟市の割烹岡田で開催しました。今年度の総会は上記6名の会員出席で開催し、木村副会長の司会進行のもと磯部県会長挨拶、桑山支部長挨拶、総会成立の報告後に下記の議案審議を行いました。

- |             |                        |
|-------------|------------------------|
| ・2021年度事業報告 | 磯部県会長報告                |
| ・2022年度事業計画 | 磯部県会長報告                |
| ・2021年度収支報告 | 木村副会長報告                |
| ・2022年度収支予算 | 木村副会長報告                |
| ・2022年度役員改選 | 会長、副会長、運営委員会、MPPケース研究会 |

上記議案は2022年度事業計画、2021年収支実績、2022年収支予算について一部修正後に全議案承認となりました。昨年度は10月30～31日開催の全国研新潟大会があり、かなりタイトな県会事業でありましたが、今年度の新潟県会主要事業としては11月19～20日に新潟県会主管で北関東支部MPP開催、併せてMPPリーダー養成・更新研修を実施の予定です。また、公開MPPを5回/年、MPPケース研究会を4回/年開催を計画しており、長岡技術科学大学の先生、学生の公開MPPへの参加については昨年度に引き続き注力していく方針です。

総会前日の4月8日に新潟市は桜の開花宣言がありましたが、新型コロナウイルス感染症第6波、ロシアのウクライナ侵攻等の世情のなかで桜の開花時期はほっとさせるひと時でもあります。総会終了後は懇親会を開催し会員相互の意見・情報交換も行い大変有意義な一日となりました。



(マスク、3密対策の総会風景)



(新潟市東区じゅんさい池のしだれ桜)

### 今後の予定

北関東支部総会 日時：5月14日(土) 13:00～会場：ひたちなか市 勝田商工会議所

新潟県会 MPPケース研究会 日時：5月28日(土) 14:00～会場：クロスパルにいがた

新潟県会 MPPケース研究会 日時：6月18日(土) 14:00～会場：クロスパルにいがた

新潟県会 第33回公開MPP 日時：7月9日(土) 13:30～会場：まちなかキャンパス長岡



埼玉支部では月例会と幹事会を定期的に開催し、月例会では情報提供者を定めテーマごとに月例会を実施しております。

幹事会では『支部の活性化』をテーマに様々な議案の話し合いを行っております。

月例会においては、ZOOMによる情報提供の後に3～4人のチーム編成を行ってグループディスカッションを実施しております。

各グループとも積極的な意見交換が行われております。

また、他支部や会員外からも参加者を募り、会のPRと会員の人脈ネットワークの拡大を図っております。

埼玉支部では『埼玉の中小企業を元気にする！』を活動目標として活動を行って参ります。

埼玉支部のHPを下記に開設しておりますのでどうぞご覧ください。

埼玉支部HP：<http://www.keieishi-saitama.com/>

### 【活動報告】

①令和4年2月14日(月) 19:30～21:00 幹事会(ZOOM会議)

#### 『議題』

- 1・経理・会計報告
- 2・広報活動について
- 3・来年度予算案について
- 4・その他「埼玉経営支援センター(仮称)」について

上記議案についての打ち合わせを行い様々な意見交換を行いました。

②令和4年3月21日(月) 19:30～21:00 幹事会(ZOOM会議)

#### 『議題』

- 1・経理・会計報告
- 2・広報活動について
- 3・MPP活動について
- 4・新年度の幹事会メンバー、活動方針について
- 5・その他

上記議案についての打ち合わせを行い様々な意見交換を行いました。

2月度・3月度の幹事会の開催において、次年度以降の課題や今後の活動方針等の意見交換により支部活性化に向けて重要な幹事会となりました。

#### 『今後の活動予定』

令和4年4月29日(金) 19:30～21:00 幹事会開催予定

以上

(広報担当幹事 渡部 正司)

## 支部活動報告

# プレDXセミナー(第1回) 盛況の内に終了

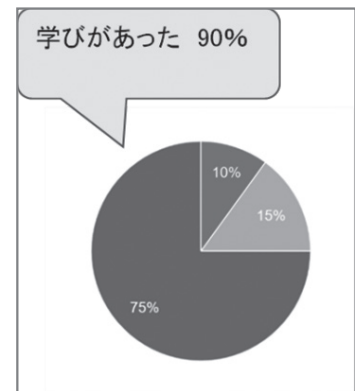
南関東支部

### 【 緒言 】

「経営士会に入って良かった」

南関東支部幹事会では、会員みなさんにそう思ってもらえるよう日頃から心掛けて、支部活動の運営にあたっています。

今般、所謂「DX」とまではいかないものの、経営士個人個人にとって、そのビジネスに大きな影響を与えかねない後記動向について、当支部の専門家を動員して会員に案内すべき、と判断し、掲題セミナーを、令和4年4月9日(土)Zoomにて開催しました。



### 【 プレDX とは? その骨子 】

2時間を超える盛り沢山の詰め込みセミナーの為、詳細説明は割愛しますが、考え方の骨子だけお示しておきます。

プレDX：所謂、経産省の提唱するDX実現そのものではないが、その前段階としてのインフラ整備がDX実現の為に重要ではないか？ との問題意識及び次の原則での取組を提唱。

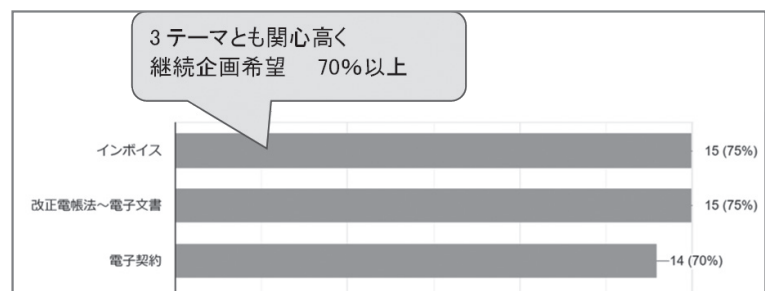
- ・ 脚下照顧(まずは足元を見直そう)
- ・ Step by Step(いきなり頂上を目指さず、一步一步固めて。スケジュール観に基づいて)
- ・ やってみなはれ(「頭でっかち」理屈こね回しは小休止、まずは「やってみる」)

こうした中、喫緊のテーマとして次の3点セットについて、

人財の宝庫である経営士会の強みを発揮すべく、税務、法務、ITの各分野の専門家が解説・説明・コメントを展開。税務分野：竹内一登先生(税理士)、法務分野：松田道佐先生(弁護士)、電子取引分野：定野淳先生(IT企業)

ブレイクアウトセッションやシステム・デモ等メリハリあるセミナーとしました。

- ・ インボイス
- ・ 改正電帳法～電子取引
- ・ 電子契約



特にインボイスは顧客への指導もさることながら、ご自身が消費税免税業者である経営士の方も少なくなく、取引先の(合理的な)値下げ要求を跳ね返せるか、むしろ課税事業者を選択すべきか、について議論に花が咲きました。

参加者は最終的に40名近くに及び、南関東支部以外からの参加も半数近く。

次回開催への期待も寄せられました。

(連絡：横田 英滋)

## 支部活動報告

# 中部支部2月～3月活動報告

中部支部

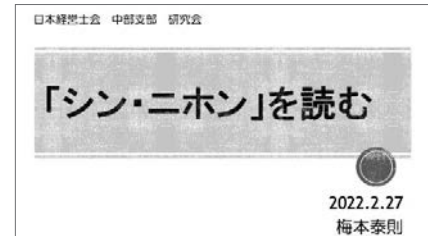
### ◆経営研究会

開催日時：2022年2月27日(日) 13:30～15:40

テーマ：読書会「シン・ニホン」を読む

進行：梅本泰則

参加者：5名



アマゾンの2021年ビジネス書総合グランプリ1位となった「シン・ニホン」を題材に、読書会を開きました。著者は、安宅和人(ヤフー株式会社 CSO、慶應義塾大学教授)。

参加者は、次の順にそれぞれの意見を発表していきました。①読後の感想②気づいたこと③問題提起されたこと④示された課題解決案は何か⑤日本の未来についてどのように提案されているか⑥著者が進めるプロジェクト「風の谷」構想をどうとらえるか。⑦仕事とは何か。

参加者の意見は、この著書では、海外主要国と比べ日本の生産性が低いので、このままでは衰退してくとの主張がされている。その課題を解決するには、グローバル人材の育成、若者の活用、国の予算の内2兆円を科学技術、大学基金を振り向けることである。また、未来を作り出す方程式は、未来(商品・サービス)＝課題(夢)×技術(Teck)×デザイン(Art)で表される。というところに、収れんしました。

むつかしい内容の本であったが、日本の未来を考えるいい機会になりました。

### ◆ECO研究会



開催日時：2022年3月27日(日) 13:30～15:00(Zoom)

テーマ：「SDG Compassを読み解く」

講師：今枝健治 参加者：5名

先ず、国際連合の目的および歴史を簡単に振り返り、コフィー・アッタ・アナン元国連事務総長が関与し、その後のSDGsに繋がる10の原則が定められた国連グローバルコンパクト、8つの目標が立てられたミレニアム開発目標(MDGs)、ESG投資を求める国連の責任投資原則(PRI)について内容を確認いたしました。

SDG Compass概要として、「SDGsはなぜ企業にとって重要か」、「SDG Compassとは何か」を説明。そして、その行動指針については、下記5ステップを適用できることが示された。

- 1)SDGsを理解する。2)優先課題を決定する。3)目標を設定する。4)経営へ統合する。
- 5)報告とコミュニケーションを行う。

そして、各中小企業において運用する際には、必要に応じてこの指針を変更し、使用すればよく、各企業の身の丈にあった弾力的な運用を行うことが大切であることをお伝え戴きました。

更に、CSR「社会的責任」の基礎として企業は何のために、誰のためにあるのかを、考えるべく、企業の社会的責任の概念とそのCSRに辿り着くまでの流れを、日本国内で発生した公害問題や世界の労働問題から、ISO26000における7つの原則7つの主題の重要性を説いていただきました。

また、ESGの概念、ESG投資について、某企業の報告書が参考になり、SDGsにおいて大切なことは、現在行われている事業内容と各項目の紐づけであり、某会社のこども環境レポートも合わせてSDGsに役立つことが理解できました。

#### ◆経営士補養成講座開催

主 催：中部支部

開催期間：2022年1月15日(土)～2月26日(土)

土曜日5日間(毎回10:00～17:00)

開催場所：愛知学院大学 名城公園キャンパス

受講生：9名(男性6名、女性3名)



(受講模様)

支部主催としてこの経営士補養成講座は年に1回開催しており、今年で第4回目の開催です。

今回の受講生は、既にコンサル実践をしている方やコンサルタントに成りたい強い意志をお持ちの方であり、非常にレベルの高い方の参加となりました。

講師は、コンサル実践で活躍している経営士が行い、実体験を含め、受講生への問いかけも



(受講生と講師)

多く取り入れた講義とし、毎回宿題を出すように致しました。それにより受講生より、実際のコンサルティングを理解したいと活発に質問もあり、宿題の難題もあったが、楽しく受講できたと好評でした。

大変充実した5日間でしたが、最終2月26日(土)には、修了証を手にし、受講の充実感を得て、「経営士補」資格に8名申請され、3月22日「経営士補」に登録し、日本経営士会入会となりました。

#### ◆環境経営士養成講座開催

主 催：中部支部

開催期間：2022年

ベーシックコース 3月 5日(土) 10:00～17:00

アドバンストコース 3月12日(土)～13日(日)

10:00～17:00

開催場所：愛知学院大学 名城公園キャンパス

参加者：4名(男性2名、女性2名)



(愛知学院大学)

環境経営、SDGs、CSR、ESGなど社会的ニーズが高まる中、企業はそれに対応すべくサステイナブルやレジリエンスが求められています。

それらを専門的に支援できる「環境経営士」資格を取得するため、中部支部として本部の協力を得て、この養成講座を毎年開催しており、今年は6回目の開催となりました。



(受講生と講師)

今回参加された受講生より、「既に実践で経営コンサルティングをしているが、これからの企業は、環境やSDGsなどをサステイナブルに対応するスキルが必要であり、この環境経営士の資格を取得しコンサルティング能力をアップして行きたい」とか「これからはこのスキルが必須だ」など、意欲的に参加してくれました。

そして、受講最後に環境経営士の確認のテストを行い、全員が合格し「環境経営士資格申請」提出となりました。



南関東支部長 戸部 廣康

はじめに：既に2018年4月～2020年3月に南関東支部長を務めましたが、再度本年2022年4月より再登板する事になりました戸部廣康です。宜しくお願い致します。コロナ禍も未だ終息せず、更に2月末よりウクライナ・ロシア戦争が勃発し、世界が混乱に落ち行っております。世界的なコロナ感染症のまん延、第三次世界大戦にもなりかねない戦争と、人類文明の持続が危惧される状況です。日本を取り巻く、軍事・外交・政治・経済状況も益々厳しい局面に対峙しております。このような事態を踏まえ、日本経営士会も注意深く、前へ進んで行かねばなりません。4年前も「SDGs」を南関東支部の活動目標の一つに掲げ、進んで参りましたが、今年度4月からも更に積極的にSDGsを推進して行きたいと考えており、皆様のご支援をお願いする次第です。今回「SDGs・カーボンニュートラルとバイオテクノロジー」というテーマで記述致しますので、ご一読戴ければ幸いです。

**1. SDGs・カーボンニュートラルの本質：**燃焼時に排出するCO<sub>2</sub>は、植物・藻類等が行う光合成によって吸収され、セルロース・植物油等の有機化合物(バイオ燃料等)の原料になる。従って、「カーボンニュートラル：排出CO<sub>2</sub>量=吸収CO<sub>2</sub>量」となりこれを「カーボンニュートラル」という。この「カーボンニュートラル」を実現する為には、「地球環境の保全:脱炭素社会の構築」と「経済成長戦略」とのリンク(資金や情報の流通)が必要である。このリンク・連携が上手く行けば、有効な「技術革新」が期待できる(資料1)。即ち、資金・情報を円滑に循環させることが重要である。カーボンニュートラルにインパクトを与える可能性のある技術に関し、筆者の研究開発で蓄積して来た知識・経験・技術を基に「バイオエタノール」「バイオディーゼル燃料(BDF; Bio Diesel Fuel)」及び「SAF(Sustainable Aviation Fuel)」技術を紹介する。

**2. 黒カビを用いるバイオエタノール製造の研究：**バイオエタノールの製造スキームを簡単に示すと、「植物体(非食部；リグニン等)⇒セルロース⇒グルコース⇒エチルアルコール」となる。枯死植物から新規に分離した3種類の微生物は、16SrRNA塩基配列の分析から青カビ、黒カビ、クモの巣カビの仲間と同定し、それぞれ *Penicillium citrinum* KK、*Aspergillus niger* KK、*Rhizopus stolonifer* KKと命名した。*Aspergillus niger* KKのみがリグニンやセルロースを分解し、資化(エネルギー化)する可能性を示した。黒カビの仲間は、地球上の炭素循環に重要な役割を果たしていると認識されている。

**3. バイオディーゼル燃料の研究：**廃食(廃天ぷら)油からBDFを作る研究を行った。アルカリを用いた「廃食油のグリセリン部分とメタノールのエステル交換反応」により、BDFを製造した。

尚、このBDFを使ったディーゼルエンジン出力試験では、所定のディーゼル燃料の能力を示した。

**4. 国内のSAFの開発状況：**民間ジェット旅客機からのCO<sub>2</sub>排出量は全体の3%程度である。朝日新聞(2022.3.3)によれば「持続可能な航空燃料 国産化へ団体を設立ANA・JALなど16社」との事である。ICAO(国際民間航空機関)のCO<sub>2</sub>排出規制に従い、2020年のCO<sub>2</sub>排出実績を超える場合、2027年からCO<sub>2</sub>排出枠の購入が義務付けられる。これに対応する為、日本でもSAFの研究開発が急がれている。試験飛行も実施しており、その一例として2021年6月17日に、JALが(羽田一札幌)、ANAが(羽田一大阪伊丹)でテスト飛行している(資料2)。日本におけるSAFの製造方法については、三つの方法がある。

① 廃食油(エステル交換反応後)の水素化 ⇒ SAF

② 光合成藻類ユーグレナ(ミドリ虫)が生産する多糖類：パラミロン

③ 古着 ⇒ セルロース ⇒ 糖化(コリネ菌発酵) ⇒ イソブタノール(脱水・水素添加) ⇒ ジェット燃料と混合(資料3)

**5. まとめ：**今回紹介したバイオテクノロジーを用いたバイオエタノール、BDF、SAFだけでは「カーボンニュートラル:脱炭素社会の実現」は難しいと思われるが、ゲームチェンジャーとなる、例えばレーザー核融合技術の確立等まで、何とか工夫しながら凌ぐほかないであろう。微生物・植物を利用・応用するバイオ技術は、SDGs・カーボンニュートラルの観点からも、石油消費量を抑制する重要な技術の一つである。尚、バイオサーファクタント及びバイオプラスチックの研究については次回述べる。

#### 【参考資料】

- 1.日経MOOK「BCGカーボンニュートラル経営戦略」編者：日本経済新聞出版(2021年10月19日 1版3刷)
- 2.「国産SAFを使用した本邦航空会社によるフライトを実施しました」経済産業省、国土交通省(2021年2月15日)
- 3.「RITEの技術を利用した古着から製造した日本初の純国産バイオジェット燃料を搭載したフライトが実施されました」(公益財団法人)地球環境産業技術研究機構(RITE)(2021年2月15日)



# 第55期経営士養成講座の募集について

第55期経営士養成講座の募集について、以下の通りご案内いたします。

## 1. 経営士養成講座の日程について

### ■ 第55期経営士養成講座カリキュラム(概要)

開講形式	日 程	時間帯	科目・講座内容
【対面】 (集合研修)	5/28(土)	09:00～18:00	◇開講式、オリエンテーション、日本と世界の環境・社会・経済動向、コンサルタントとしての基本スキル、コミュニケーションツールの説明、MPP、ほか
オンラインZoom	6/04(土)	09:00～18:00	マーケティング、販売戦略、財務分析資金調達、ほか
オンラインZoom	6/11(土)	09:00～18:00	実務研修事前、中小企業支援諸施策、ほか
【対面】 (集合研修)	6/18(土)	09:00～18:00	実務研修① <企業訪問> 実務研修② <企業の実態把握>
オンラインZoom	6/25(土)	09:00～18:00	実務研修③ <課題抽出>、持続可能な企業経営(CSR/CSV/環境経営・ESG投資とその事例)、ほか
オンラインZoom	7/02(土)	09:00～18:00	生産管理、中小企業の海外展開・ニュービジネスモデルと女性起業、ほか
オンラインZoom	7/09(土)	09:00～18:00	実務研修④、中小企業におけるICT導入と情報セキュリティ、ほか
オンラインZoom	7/16(土)	09:00～18:00	実務研修⑤、リスク管理とBCP、人材開発の手法と実施体制、ほか
オンラインZoom	7/23(土)	09:00～18:00	ビジネス倫理、企業経営者講話
【対面】 (集合研修)	7/30(土)	09:00～18:00	実務研修⑦ <企業への報告>、経営士会の人材育成、ほか ◇修了式 18:00～打上懇親会(コロナの状態で状況判断)

※詳細内容につきましては、日本経営士会HP <https://nihonkeieishikai.com/> でご案内しております。ご確認ください。

◇養成講座カリキュラム：[https://nihonkeieishikai.com/topwp/wp-content/uploads/2022/04/keieishi\\_55a\\_220412.pdf](https://nihonkeieishikai.com/topwp/wp-content/uploads/2022/04/keieishi_55a_220412.pdf)  
なお、都合により、カリキュラムおよび講師の変更をすることがあります。

## 2. 研修場所

- 会 場： 一般社団法人日本経営士会・本部会議室および実務研修先
- 住 所： 〒102-0084 東京都千代田区二番町12-12 B.D.A.二番町ビル5F

## 3. 受講申込み

- 申込方法： 次頁の申込書にご記入の上、メールまたはFAXにてお申込み下さい。  
なお、受講料の納入をもって受付完了とさせていただきます。
- 募集人員： 10名(定員になり次第締め切らせていただきます)
- 申込締切： 2022年5月20日(金)
- 受講料： 220,000円(消費税含む) ※受講開始後の返金は致しません。
- 振込先： みずほ銀行 麹町支店 普通 1614618 一般社団法人 日本経営士会

## 4. お問い合わせ

- 申込み先： 一般社団法人日本経営士会 本部事務局 窓口：田中洋子 宛
- 連絡先： 〒102-0084 東京都千代田区二番町12-12 B.D.A.二番町ビル5F
- 電 話： 03-3239-0691 / FAX：03-3239-1831
- E-mail： [office@nihonkeieishikai.com](mailto:office@nihonkeieishikai.com)

## 5. その他

- 新型コロナウイルス感染対策を徹底し、十分な予防対策を取っていただきますようお願いいたします。
- 今後のコロナ感染状況により、行政・自治体などの要請に基づき、対面形式を一部変更する場合もございますので、ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。

## 第55期経営士養成講座申込書

申込日 2022年 月 日

<b>申 込 者</b>	<b>氏名</b>	(ふりがな)	生年月日 ( 歳)		
			年	月 日	
	<b>会員番号*1</b>		<b>所属支部*1</b>		
	<b>現住所</b>	〒			
	電話番号:		FAX 番号:		
	Email アドレス:				
<b>勤 務 先</b>	<b>勤務先名</b>		<b>役職</b>		
	<b>勤務先所在地</b>	〒			
	電話番号:		FAX 番号:		
	Email アドレス:				
<b>最終学歴*2</b>					
<b>社会での学習実績 *3</b>					
<b>業歴と役職 *4</b>					
<b>紹 介 者</b>	<b>紹介者*5</b>				
	<b>紹介者支部*5</b>				

\*1 経営士会会員の場合、ご記入下さい。

\*2 大学卒業程度の学識と**実務経験 5 年以上**

\*3 保有資格や社会に出てからの学習の経験を**出来るだけ細かく**書いてください。

\*4 **今迄携わってきた経営管理の経験実績**、管理職やリーダー経験等を**出来るだけ細かく**書いてください。

\*5 紹介者がいる場合、ご記入下さい。

※ご提供頂きました個人情報、本部および中日本ブロックからの研修会などの情報提供のみに使用させていただきます。

# インフォメーション

## 新刊案内

### 「社長! そんな採用サイトでは絶対にいい人材は獲得できませんよ!」 「求職者が増える」「社員が辞めない」20の仕掛けとコンテンツ

ポストコロナ、事業活動を再開、正常化した企業では、コロナ時代に積み残したプロジェクトやタスクがいよいよ動き出した。

だが、それを動かしていく人材がいない。技能実習生(外国人)の来日はまだ先のことだ。

人材市場では、いわゆる3K職場が嫌われ、どんなに採用広告を出しても応募がない状態になっている。

このままでは、中小企業は人材倒産してしまう。

そこで本書では、代表的な3K職場である熊本の社会福祉法人の実例に焦点を当て、どのように人材不足を克服してきたか、その実例とともに、採用活動でなくてはならないホームページの「採用コンテンツ」をどのように作成していくかを紹介した。

コストをかけず、最大の効果を上げる具体的な方法を示すことで、多くの中小企業、とりわけ3K職場の企業の採用活動に大に参考になるだろう。



著者	尾崎竜彦(会員番号4288)、嶋田利広	発行日	2022年4月9日
出版社	マネジメント社	価格	1,500円+税

### 事業再構築クロスSWOT分析で創り出す 戦略立案&事業計画作成マニュアル

2021年度に経産省が創設した「事業再構築補助金制度」に焦点を当て、同補助金を活用して新規事業を企図する中小企業および、同制度の事業計画書作成等を支援する認定支援機関(会計事務所、金融機関等)向けの計画書作成マニュアル。

SWOT分析を活用して、実現可能性のある新規事業戦略および事業計画書の作成、さらには事業開始後のモニタリングまでの手順を解説。

中小企業経営者、会計事務所、コンサルタント、銀行関係者必読。

出版社: マネジメント社 発行日: 2021年6月11日



尾崎竜彦(共著)  
価格 ¥2,200円+税

## 計報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。  
会務に多大のご尽力をされました。

\*眞下 武久 (NO.1689 北関東支部) 令和4年3月16日没(享年87歳)

# Management

経営に知恵と革新

Intelligence and Innovation in Management

# Consultant